

平成25年度事業計画

公益財団法人 北九州活性化協議会

目次

I. 概況	…………… P 4
II. 公益目的事業	
1. 環境を未来に引き継ぐ事業	…………… P 4
1) もったいない総研事業	
(1) もったいないスクール2013	
(2) もったいない精神（こころ）の普及	
(3) もったいない塾の開催	
(4) 広報活動	
2. 産業人材を育成する事業	…………… P 6
1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業	
(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営	
(2) 社会人育成プログラム事業の企画、運営	
(3) 青少年育成プログラム事業の企画、研究	
(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備	
3. 次世代を担う人材を育成する事業	…………… P 8
1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業	
(1) P T Aの日事業の実施	
(2) 支援事業の実施	
(3) 運営体制の強化	
2) ひまわり塾の開催	
4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業	…………… P 9
1) 「1000人の夢寄金」事業の実施	
(1) 寄付金募集事業の推進	
(2) 助成事業の実施	
(3) 広報・プロモーション事業の実施	
2) その他関連事業	
(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援	
(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画	
5. 情報受発信・交流事業	…………… P 11
1) A B L Eサロンの開催	
2) 情報受発信の強化	
(1) K P E Cニュースの発行	
(2) ホームページの運営	

3) 地域づくりネットワーク事業	
(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営	
(2) 地域づくりネットワークへの参画	
6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業	…………… P 1 2
1) 教育普及に関する事業の企画運営	
2) 調査研究に関する事業の企画運営	
3) 企画展示に関する事業の企画運営	
4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画運営	
7. まちづくり推進事業	…………… P 1 5
1) まちづくり講演会の開催	
2) 地域活性化に向けた新しい活動分野の研究	
3) K P E C 設立 2 5 周年記念事業	
Ⅲ. 法人運營業務	…………… P 1 5
1. 会員サービスの向上	
1) 情報提供の充実	
2. 財務体質の改善	
1) 賛助会員の拡大	
2) 寄付事業の開設運営	
3) 新規事業の研究・調査	
3. 地域連携促進事業の運営	
1) 「スポーツ振興チケット」事業	
4. 組織運営体制の強化	
1) 事業運営体制の整備	
2) 公益認定範囲の見直し	
5. 会議等の実施	

I. 概況

経済のグローバル化の進展による国際競争の激化と長期化するデフレ経済や円高、エネルギー問題等の6重苦を抱える閉塞感が日本経済を覆う中で行われた衆議院総選挙の結果、民主党から自民党へ政権が交代し、緊急経済対策を含む新たな経済・社会の再生計画がスタートした。

円安と株価上昇へと局面の転換はなったものの、欧州経済の混迷や中国経済の成長スピードの鈍化等、世界経済の不透明感は依然拭われておらず、景気回復の足並みも予断を許せない状況にある。

一方で、国や地方自治体の財政改革が叫ばれる中、「新しい公共」による地域づくりの方向が提示され、PPP（公民協働）やコミュニティビジネスなど、地域社会の中から新しい産業や雇用機会を生み出そうとする動きも活発化してきた。

こうした環境の中で、北九州地域の活性化における産学官民の連携軸の機能を持つKPECの事業運営に対する関心と期待が高まってきている。

平成25年度のKPEC事業は、北九州地域の中堅・中小企業の産業人材育成のための地域システムづくりを行う「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、企業人が小学校の教育環境の改善に取り組む「北九州の企業人による小学校応援団事業」、教育・文化分野の市民活動を支援する「1000人の夢寄金事業」を中心に、地域活性化の新しい仕組みづくりを推進する。

また、「環境未来都市」を目指す北九州市の動きを踏まえ、15年の実績を持つ「もったいない総研事業」の拡充を図るとともにKPECとしての新しい取り組みの検討を行う。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（KIGS）の管理、運営については、「人材育成・産業技術の保存継承・技術革新の機会創出」という設置目的の実現を目指すとともに、KPECの組織環境を生かした地域連携による事業運営の環境づくりをする。

また、こうした事業の拡充に対応した事業運営体制の整備、財務体質の改善等、KPEC運営についての環境整備も並行して進める。

平成25年度の事業計画は以下のとおりである。

II. 公益目的事業

1. 環境を未来に引き継ぐ事業

1) もったいない総研事業

世界の環境首都を目指す北九州市の環境政策を踏まえ、一昨年に認定された「環境未来都市」の実現に向けて、市民・企業・大学・行政の協働の場づくりと「もったいない精神（こころ）」の普及のための情報交流機会の創出を行う。

(1) もったいないスクール2013

（一社）北九州青年会議所と協働で、北九州の重要な地域資源である「曾根干潟」を次世代へ残していく活動に取り組む。

(2) もったいない精神（こころ）の普及

“もったいない精神（こころ）” 提唱の先駆者として、市民一人ひとりが環境意識を高めて

持続可能な低炭素社会を作り出していくよう、生活に密着した活動を展開し “もったいない精神（こころ）” の醸成を図る。

① 環境「もったいない」作文の募集

北九州市PTA協議会と共催で、市内全域の中学校（中学2年生）を対象に環境作文を募集し優秀作品を表彰する。

② 食と農のプロジェクト

地元の食材を楽しみ、親しみ、環境に貢献しながら地元食文化を受け継いでいくと共に、子どもたちの食育を進め、北九州の「食」と「農」の向上を図ることを目的として以下の活動を行う。

- ・主催イベント 先進地域見学会、交流会など（年2～3回）
- ・支援プロジェクト 有機農法で農産物を栽培する農園や、ショップ、レストラン等を発掘し、これらの情報を北九州活性化協議会「もったいない総研」のホームページに掲載して周知する。

③ ライトダウン&キャンドルナイト

環境省が呼び掛けている「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」および、民間団体が主催する「100万人のキャンドルナイト」の趣旨に賛同し、照明を消してキャンドルの灯りを囲み、地球環境のこと、人とのつながり、大切な何かに気づく時間を共有するきっかけを作る。

④ リサイクルトイレットペーパーを通じた環境教育

リサイクルトイレットペーパー「えこっパー」の製造メーカーから売り上げに応じて頂いた寄付金を北九州市PTA協議会に寄付し、子供たちの環境教育に役立てる。

また、学校給食の牛乳パックを「えこっパー」の原料として活用する活動を市内の小中学校へ広め、牛乳パックのリサイクルを促進する。

(3) もったいない塾の開催

市民や企業の意識啓発と「世界の環境首都・北九州」の機運をさらに盛り上げていくため、以下の活動を行う。

① 「ラジオもったいない塾」

北九州シティFMの環境番組「エココロWind」にて、「ラジオもったいない塾」として、もったいない総研の活動などを紹介する（月1回）

② 環境に関する講演会の開催

環境について考える機会を市民へ提供する。

③ 年長者研修大学校での講演

北九州市立年長者研修大学校（周望学舎、穴生学舎）の「暮らしと環境」講座において、各年一回講演し、もったいない総研の活動を紹介する。

(4) 広報活動

もったいない総研の活動を情報発信し、市民意識の向上を図る。

- ① 「もったいないすたいる」の発行（年1回、平成26年3月）
- ② ホームページにより、活動情報をタイムリーに発信する。

2. 産業人材を育成する事業

1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業

地域の中堅・中小企業の経営力強化と産業人材の育成をすることを目的に「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、CSV (Creating Shared Value) を踏まえた、産学官協働による産業人材育成事業を企画・実施する。

(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

産学双方のニーズを踏まえた実践的な交流機能として「地域連携型インターンシップ事業」の地域システム化を図ると共に、研究プロジェクトを継続運営し、関連事業の研究、開発及び事業化を推進する。

① 地域連携型インターンシップ事業の開発・実施

i) 産学連携によるインターンシップ事業の実施

地域4工学系大学等と中堅・中小企業の自立型連携によるインターンシップ事業を拡充する。(目標:参加校—4校、参加企業—100社、参加学生—200名)

ii) 「地域連携型インターンシップ・ビジネスモデル」の拡充

ステークホルダーの自立型連携によるインターンシップ事業のビジネスモデル化を促進し、各事業の実施を通じてインターンシップの実効性の向上と事業の円滑化を推進する。

iii) 「地域連携型インターンシップガイドCD(改訂版)」の作成

「地域連携型インターンシップ事業」のデータベース及びプロモーションツールとして事業ガイドCD-ROMを作成する。

② 「学生のための北九州企業発見ツアー」の実施

北九州商工会議所が推進する産業観光事業と連携し、地元企業の理解促進と社会人基礎力の向上を目的とした企業見学ツアーを企画、実施する。

(目標:参加校;4校、実施回数:3回、参加者;120人)

③ インターンシップ研究プロジェクトによる事業及び環境開発の実施

インターンシップの役割と機能を多面的に研究するため、産学官による「インターンシップ研究プロジェクト」を編成し、「実践型インターンシップモデル」及び「グローバル産業人材育成プログラム」の開発とフィジビリティスタディを行う。

(2) 社会人育成プログラム事業の企画、運営

中堅・中小企業の中核専門人材及び経営管理人材の育成、強化を目的に、地域大学の制度・環境を活用した「社会人向け人材育成プログラム」の開発、事業化を、研究プロジェクトを編成して実施する。

① 中堅・中小企業の中核専門人材育成に向けた環境開発

「社会人育成プログラム」研究プロジェクトを編成し、九州工業大学と連携して中核技術人材育成のための環境づくりと関連事業の企画・運営を行う。

i) 北九州ドクターチャレンジプログラムの編成

九州工業大学の社会人プログラムを活用した中小企業の中核専門技術者の博士号

取得のための環境開発を行い、フォーラム事業としての事業化の検討を行う。

- ii) 産学連携によるリカレントプログラムの開発、企画の実施
地域の中堅・中小企業の技術人材のリカレント教育を目的とした出前講義の企画、開発を行い、産業人材育成フォーラム事業として事業化の検討を行う。

② 中堅・中小企業の経営人材育成に向けた環境開発

「MBA活用プログラム」研究プロジェクトを編成し、北九州市立大学大学院マネジメント研究科と連携して経営人材育成のための環境づくりと関連事業の企画・運営を行う。

- i) 「MBAサテライトフォーラム」の実施
北九州市立大学K2BSと連携した公開経営者スキルアップ講座を実施する。
- ii) 「経営者のためのビジネス講座」の開催
北九州市立大学大学院マネジメント研究科、中小企業基盤整備機構九州本部、中小企業大学校直方校等と連携して「経営者のためのビジネス講座」を実施する。
- iii) MBAホルダーによる白熱講座の企画、実施
北九州市立大学大学院MBAホルダーである企業経営者等による特別カリキュラムを編成し、地域の大学生を対象に実践型のキャリア形成講座を実施する。
- iv) 産業人材育成フォーラム車座経営者育成塾の開発、実施
フォーラムの実践的経営研究事業として、「経営継承」をテーマとした車座講座を企画、開催する。

(3) 青少年育成プログラム事業の企画、研究

青少年プログラム研究プロジェクトを編成し、北九州地域の小・中・高を対象にしたものづくりに関する教育機会の確保と基本的な資質の習得等、早期工学教育環境の開発及び産学官連携による地域システムの構築についての研究を行う。

① 産業人材育成フォーラム青少年育成プログラム及び環境開発の企画、研究

北九州イノベーションギャラリー(KIGS)、九州工業大学理数教育支援センター等の「ものづくり教育」推進にかかるステークホルダーの連携システムの構築を図ると共に、産学官民協働による次世代イノベーターの育成及び青少年のキャリア教育の支援環境の開発を行う。

② 「北九州の企業人による小学校応援団」事業等と連携した普及事業の実施

- i) 藤田哲也博士をテーマとした小学校への出前事業
北九州出身の藤田哲也(トルネード)博士の生涯と偉業をテーマにして、小学生を対象にした出前講義を実施する。
- ii) 地域中堅・中小企業経営者によるキャリア教育プログラムの実施
キャリア教育を目的として、フォーラム企業会員等の経営者による出前講座を企画、開発し、小学校応援団と連携して事業化を推進する。

(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と運営基盤整備のためのプロモーション事業の企画、運営と共に、CSV(Creating Shared Value=経営と社会との共有価値を創出)を踏まえたフォーラム事業の推進基盤としての企業アライアンスの編成とステークホルダーによる自

立型連携システムの構築を図る。

① 北九州地域産業人材育成フォーラム「企業部会」の編成

北九州地域産業人材育成フォーラムの事業推進基盤として、産業人材育成を協働するための地域企業のアライアンスを編成する。

(目標企業数；100社・企業部会会費；30,000円/年)

② 「産業人材育成セミナー&産学交流会」の開催

産業人材育成フォーラム事業への参画と大学関係者と企業経営者の顔の見える交流を促進するためのインセンティブ事業を実施する。」

(H25年度インターンシップ事業の準備活動と連動して先行実施する)

③ 北九州地域企業学内説明会の実施

地場中堅・中小企業への就職機会の創出を目的に「産業人材育成フォーラム」関係企業を対象にした大学内企業説明会を九州工業大学等と協働で企画・開催する。

④ 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの設置及び運用

産業人材育成に関する関係分野、機関の情報と産業人材育成フォーラム関連情報を集約するホームページを設置し、学生を含めたステークホルダーの情報交流機能としての拡充を図る。また、産業人材育成フォーラムのホームページをシステムベースとして、企業部会登録企業を対象に「北九州人づくり・価値づくりベストワン企業ネットワーク(仮称)」の編成を目指す。

3. 次世代を担う人材を育成する事業

1) 北九州の企業人による小学校応援団事業

「北九州地域の企業人による小学校応援団」を中心として、市教育委員会、小学校、PTA協議会、教育団体等と連携しながら、PTA活動、教職員研修、出前授業、体験学習などに対する支援事業の開発と事業運営体制づくりを行う。

(1) PTAの日事業の実施

① PTAの日の運営

PTA協議会及び校長会と連携してPTAの日(当面、1学期と2学期に各1回程度)を設け、小学校応援団登録企業従業員のPTAの日への参加促進事業を行う。

② 「〈仮称〉北九州の明日の子どもを育てるフェスティバル」の開催協力

市制50周年記念事業として、PTA協議会と市教育委員会が計画している「〈仮称〉北九州の明日の子どもを育てるフェスティバル」(11月開催、PTAの日行事となる予定)に協力する。

(2) 支援事業の拡充

① モデル校に対する支援の継続実施

各モデル校の平成25年度支援事業活用計画を踏まえ、支援事業を引き続き実施し、その結果を検証して、支援事業の充実(全130校への対応)を図る。

モデル校（現在11校）は、民間人校長配置校（2校）を加え13校とする。

② 支援メニューの拡充

企業等の支援メニュー（支援情報リスト）を拡充し、多様な支援ニーズへの的確な対応を図る。（支援メニュー目標：100件）

③ 支援事業の拡充

小学校等を対象とした出前授業などの事業実績を有する大学や公的団体と連携し、理数教育出前講義（九工大）、国際理解教育出前講座（県国際交流センター、北九州国際交流協会ほか）、非行防止教室等への事業の拡充を行う。

（3）運営体制の強化

① 企業経営者等の講師登録の実施

講師登録制度を設け、出前授業や教職員研修、親学の推進のための講師陣の拡充を図る。

② 市教育委員会等関係機関との連携強化

支援事業の円滑かつ継続的な推進を図るため、小学校応援団、市教育委員会及びKPECで連携協定を締結する。

③ 規約の整備

小学校応援団の位置づけ、運営組織等を明確にするため、規約を定める。

⑤ 小学校応援団参加企業の増強

参加企業の倍増（現在144社→目標300社）をめざす。特に北九州青年会議所及び北九州青年経営者会議には、組織連携と会員企業の参加について全面協力を要請する。

⑤ PRの推進

支援事業に対する経済団体や企業、大学、市民団体の理解と協力を深めるため、小学校応援団のPRを推進する。PRのツールとして、ホームページ、イメージポスター等を作成する。

2) ひまわり塾の開催

- ・企業人と市職員それぞれが観点の違う立場から「北九州市のまちづくり」について考え、新しい発想のトレーニングをする場として発足した「ひまわり塾」を継続実施する。

主催：（公財）北九州活性化協議会、北九州市

対象：企業人15名程度、北九州市職員15名程度

スケジュール：開講式；平成25年7月

発表会・閉講式；平成26年7月

4. 都市格（教育力・文化力）を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業の実施

教育および文化分野における市民活動への助成を目的とした「1000人の夢寄金」事業について、体制整備を進め、認知度の向上により拡大充実を図る。

(1) 寄付金募集事業の推進

1口3000円の寄付金の認知度を向上させ、募集事業の拡大を図る。

① 寄付募集の体制確立

寄付者を中心に編成した「1000人委員会」を核として、広く募集できる体制を確立する。

② 寄付金受け入れ体制の構築

- i) 寄付金の受入れ管理および寄付者サービスを確実にかつ効率的に行える体制を構築する。(会員管理システムのバージョンアップを含む。)
- ii) クレジット決済システムの導入など、寄付受け入れ方法の多様化を図る。

(2) 助成事業の実施

助成先を広く募集し、将来性のある団体に助成を行う。(年間2回)

① 助成先の募集

幅広く助成先募集を行うネットワークを構築し、将来性のある団体及び個人の募集を行う。(年2回)

② 助成先の選定

公正、公平、公明性を持った助成金審査委員会において、必要な場合アドバイザーの意見を求め、助成先を選定する。

(3) 広報・プロモーション事業の実施

① ホームページ及びFacebookの運営

ホームページおよびFacebookにて、寄付者情報、活動情報等をタイムリーに発信を行う。

③ 年度報告会の開催

寄付者や助成先団体を集め、報告会を開催する。(年1回)

2) その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で企画され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

市民主導によるビジターズ・インダストリー創出推進を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。

5. 情報受発信・交流事業

1) A B L E サロンの開催

地域社会の課題や地域政策などを学び、K P E C 活動の方向性を探るとともに、会員企業及び地域活性化に取り組む人との交流を促進することを目的として「A B L E サロン」を企画、開催する。

- ・ 実施内容 : 講演会および交流会
- ・ 実施回数 : 年3回程度

2) 情報受発信の強化

機関紙とホームページの連携を図り、K P E C 活動の発信力向上を図る。

(1) K P E C ニュースの発行

K P E C の活動及びまちづくり関連情報等を掲載した機関誌「K P E C ニュース」を発行し、K P E C 会員及び関連団体に広く配布する。

- ・ 発行回数 : 原則として、2回/年(9月、3月)
- ・ 発行部数 : 2000部程度

(2) ホームページの運営

K P E C 本体と事業専用ホームページの充実と連携により、K P E C 事業活動情報をタイムリーに発信する。

事業名	ホームページアドレス	運営状況
K P E C 本体	http://www.kpec.or.jp/	H25年3月更新予定
もったいない総研	http://www.kpec.or.jp/mottainai	H25年度に更新予定
1000人の夢寄金	http://www.kpec.or.jp/yume	H24年10月開設済
北九州地域産業人材育成フォーラム	http://www.kpec.or.jp/jinzai	H25年3月開設予定
北九州の企業人による小学校応援団	http://www.kpec.or.jp/ohendan	H25年度に開設予定
北九州イノベーションギャラリー	http://www.kigs.jp/	稼働中

3) 地域づくりネットワーク事業

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の実施

地域活性化を目的に活動する北九州市内の経済団体の連絡会議を編成し、各種の情報共有と、事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

① 参加団体

北九州商工会議所、(公財)北九州活性化協議会、(一社)西日本工業倶楽部、(一社)北九州中小企業経営者協会、(一社)北九州青年会議所、(社)北九州青年経営者会議

② 連携事業

i) 共催事業の実施

「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を開催する。

ii) 協力事業の実施

参加団体の企画する事業および組織運営に関する情報交換等を行い、相互協

力による事業運営の円滑化を図るとともに、地域振興に向けた連携事業等の研究を行う。

(2) 地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」において、研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果たす。

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州は、日本における近代産業の黎明期から拠点的な工業都市として発展し、やがて北九州工業地帯を形成、時代の変化に呼応した変遷を遂げ、世界に冠たるものづくり大国となった今日の日本の産業構造構築の上で、つねに極めて重要な役割を担ってきた。

北九州イノベーションギャラリー（産業技術保存継承センター）は、この当地固有の歴史的風土がそこに根ざした多くの企業のたゆまない努力から生み出された技術革新～「イノベーション」の積み重ねの中で育まれてきたことを見つめ、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用しながら、明日の北九州、ひいては日本を支える新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・育成、（2）産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）、（3）技術革新（イノベーション）の機会創出を図っていく。

1) 教育普及に関する事業の企画運営

次世代の北九州を支えるイノベーターを育成していくため、小中学生から一般市民まで幅広い世代の教育普及事業を実施する。特にこれまで不十分であった若手技術者や技術系大学生、工業高校、理数系普通高校生など対象とした教育普及事業にも注力する。

ア. フォーラム、シンポジウム、セミナー等

イノベーション・フォーラムについては、北九州内外の著名な有識者を招いてイノベーションを様々な観点から語り、北九州の産業技術活性化に資する最も重要なイベントと位置づけ、これまでの年1回から2回開催とする。そのほか、企画展に連動した講演会等を開催する。

イ. 講座、セミナー等

- ① 技術革新講座は、イノベーションの実践講座として毎年、特定の産業分野を対象に最先端技術・イノベーションを分かり易く社会へ伝えること、また他分野への応用も示唆し、新たなイノベーション創出を刺激する内容に改編し、平成24年度の医学分野に続き、平成25年度はエネルギー分野をテーマとし6回開催する。
- ③ デザイン講座は、連携先をKDA(北九州総合デザイナー協会)、西日本工業大学デザイン学部などに変更して4回開催する。また、デザインフェアを10月のデザインの日シンポジウム、作品展等を開催する。
- ④ ものづくり講座は、対象を従来の工業高校に加え、普通高校(SSH)、福岡教育大技術系教員養成課程、工科系大学・高専、中小企業新入社員等まで広げ、ものづくり

研修プログラムの充実を図る。

- ④ 北九州技能フェスティバルを新規に開催し、マイスター及び技の達人による実技や講演を通して、市民に感動を与えるとともに、後継者の創出と達人たちの伝承機会を創出する。

そのほか、KIGS市民講座や調査研究報告会等を適宜開催する。

ウ. ワークショップ

創造的ものづくりに取り組む工業高校生等とチームをつくり、視野の拡大や実践力の養成を目指す KIGS プロジェクトを継続実施するとともに、帆船模型倶楽部等ものづくり活動に取り組んでいる市民団体の活動や研究を引続き支援する。

エ. イベント

ものづくりの大切さを、小学生に体感させる「東田サマースクール」や、小中学生の理数教育を高校生や大学生が工作や実験等とおして理解を深める「世界一行きたい科学広場 in 北九州」、古代たたら製鉄の体験をおして毎年多くの感動を与えている「東田たたらプロジェクト」等を継続実施する。

オ. 団体向け講習

来館者や利用者の増加を図る為、修学旅行や企業研修等の誘致活動と併せて、もりづくり体験等魅力ある教育プログラムを実施する。

2) 調査研究に関する事業の企画運営

当施設の設立目的である産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）と人材育成を実現するためには、個々の技術に秘められた創意工夫、技術者の思い、社会や文化が技術革新に与えた影響、さらには、技術革新が社会に与えた影響などを分かり易い形で伝える必要がある。このため、技術の本質を明らかにする調査研究を行い、技術への興味を喚起するような本質的な技術教育プログラムの展開を目指していく必要がある。

ア. 施設研究員及び特任研究員による自主研究

テーマ（案）：「(仮称) モータードライブ技術の歴史と発展」

テーマ（案）：「(仮称) 溶接技術の歴史と発展」

イ. 共同研究

テーマ（案）：「(仮称) イオン交換樹脂技術の系統化調査」

ウ. 委託研究

テーマ：「(仮称) マイスターによる効果的な技術指導②」

3) 企画展示に関する事業の企画運営

企画展示は、当施設の活動をアピールする重要な事業であり、当施設の基本テーマである「イノベーション」を中心に、その考え方を伝え、それが北九州ひいては日本の将来にとって大切であることを伝える展示にする。

ア. 実施回数及び時期

◆ 年4回実施（春・秋・冬・春）

区分	開催期間	規模	テーマ（仮称）	概要
春	H25. 3. 30 ～6. 30	中	「（仮称）ヒトと共にある ロボット展」	ヒトの安全・安心を支える最新のロボットやロボットの仕組みを紹介する。
夏	H25. 7. 13 ～9. 23	大	「（仮称）海洋のイノベーション展」	漁業や海運等様々な分野で海を舞台に発展・革新されてきた技術にスポットをあて、将来のものづくり技術への興味が持てる展示をする
秋	H25. 10. 5 ～12. 28	中	「（仮称）食品のイノベーション展」	酪農、畜産、水産について、団体やメーカー（ニシラク、クラウンパン、ニッスイ、日清食品、大塚製薬等）の協力を得て、生産の工夫や発想、システムの近代化等について、体験や画像を交え紹介する。
冬	H25. 1. 18 ～3. 10	中	「（仮称）印刷技術の進化展」	木版印刷から最新のデジタル印刷までの歴史と、最新のナノテクノロジーに基づく印刷技術などを紹介する。

4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画運営

当施設のテーマであるイノベーション、産業技術、デザインに関する映像・図書・資料等を収集し、アーカイブの充実を図るとともに、ライブラリーや情報システムを通じて広く公開し、学習や研究活動を情報面から支援していく。

ア. 図書、雑誌、資料等の収集・公開

①図書・資料の収集

イノベーション、産業技術、デザインに関連する図書、雑誌を中心とし、更に、企画展と関連する図書を収集する。また、産業史資料として社史の充実を図る。

②ライブラリーの運営

利用者の声を反映させるとともに、スタッフの質的向上を図り、学習や調査研究のためのサービス充実に取り組む。

イ. 映像の制作・公開

①映像の製作

「（仮称）「超大型鍛造品製造の技術革新」

②映像の公開

定期上映の他、企画展、各種講演、イベントと連携した解説付きの上映会を開催する。なお、団体客利用時は、団体からのリクエストを優先して上映する。

7. まちづくり推進事業

PPP（公民連携）や「新しい公共」など「支え合いと活力のある」社会の実現に向け、公益財団法人であるKPECの組織的位置づけを活かし、市民・団体・大学・行政等の連携軸として北九州の街づくりのための環境づくり行う。

1) まちづくり講演会の開催

平成22年度より実施している講演会を踏まえ、関係団体の連携強化と地域のシンボル事業の開発を目的として、「世界に広がる北九州のあすを考える講演会」を開催する。

主催：（公財）北九州活性化協議会、北九州市

共催：北九州地域経済団体連携フォーラム加盟団体

開催日：未定

2) 地域活性化に向けた新しい活動分野の研究

公益財団法人としてのKPECの組織的環境を活用し、「新しい公共」による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業の研究、開発を行い、事業化の方向性を検討する。

3) KPEC設立25周年記念事業

設立25周年にあたり、関連団体との協業により、記念事業を企画実施する。

Ⅲ. 法人運營業務

KPECの目指す目標を達成するために、戦略的な運営を推進する。

1. 会員サービスの向上

1) 情報提供の充実

会員データの整備を進め、ホームページを活用して会員への情報提供を推進する。

2. 財務体質の改善

1) 賛助会員の拡大

広報ツールの充実によりKPECの認知度を向上させて、会員の拡大を図る。

2) 寄付事業の開設運営

KPECへの認知度向上を図り、寄付金募集を推進する。

① 寄付金受入体制の整備

寄付体系を確立し、寄付金受け入れ体制を整備する。

- ・一般寄付金：使途を限定しない寄付金
- ・指定寄付金：特定の事業に対して募集する寄付金

② 寄付受入事業の広報の実施

KPEC事業活動の理解を促進すると共に、「公益財団法人」の税法上の優遇措置への認知度向上を図り、寄付募集を推進する。

3) 新規事業の研究・調査

指定管理事業、収益事業、国の助成事業等について、検討を行う。

3. 地域連携促進事業

1) 「スポーツ振興チケット」事業

「スポーツ振興による青少年健全育成実行委員会」を通じて、平成22年度に実施した「サッカーを通じた青少年育成事業—スポーツ振興チケット」の活用を促進し、KPECの青少年育成事業の実をあげるとともに、地域活性化のシンボルである「ギラヴァンツ北九州」を積極的に支援する。

4. 組織運営体制の強化

1) 事業運営体制の整備

4つの主要事業の本格的稼働に対応して、連携範囲が拡大し事業推進業務が増大している。事業についての地域の理解を深め、事業費の確保、運営システムの拡充、事務局体制等の事業運営体制の整備を行う。

また、KIGS事業については、産業人材育成フォーラム事業との連携を含め、KPEC本体事業との連携を強化し、KIGSの事業運営環境の改善を図る。

2) 公益認定範囲の見直し

KPEC事業の方向性に沿った公益認定範囲となるように変更認定を申請する。

5. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催する。

- i) 理事会の開催 (6月、3月)
- ii) 評議員会の開催 (6月、3月)
- iii) 評議員選定委員会の開催 (随時)
- iv) 執行役員会議の開催 (月1回)